

米価は暴落、資材は高騰 これでは米づくりは続けられない



2022 年産の新米が出回るようになりま
した。農家にとっては、うれしい収穫期の
はずですが、将来への不安が募る秋になっ
ています。

長年下落傾向が続いていた米価は、コロ
ナ禍による需要の落ち込みでさらに急落
し、2021 年産の生産者売り渡し価格は、
1 俵 (60 kg) 当たり 10,000 円を下回る
例が続出しました。農水省が調査した全国
平均の生産費 (2020 年) は 1 万 5,046 円
ですから、農家は米を 1 俵出荷するたびに

5,000 円の持ち出しです。

出荷の始まった 22 年産米は
昨年をわずかに上回る価格で取引されてい
ますが、一方でロシアによるウクライナ侵
略と円安によって肥料や燃料などさまざま
な生産資材が高騰し、コストが低いとされ
る大規模経営でも採算を取ることが難しく
なっています。このままでは、米農家の離
農が相次ぎ、日本中にさらに耕作放棄地が
広がりかねません。



食料増産・自給率向上をめざす農政に転換を

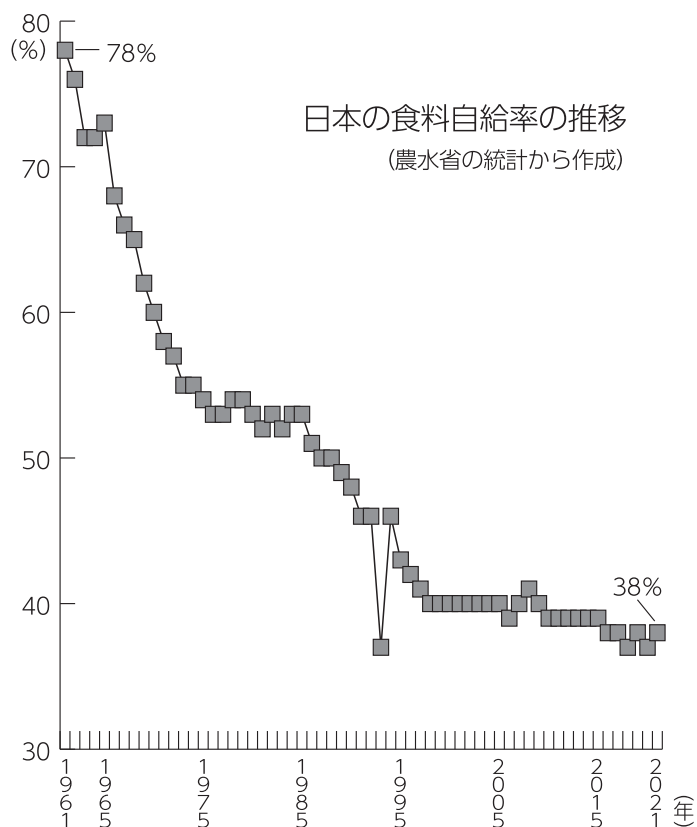
政府は、米価暴落の対策は供給量を減ら
すことだという政策をとり続け、離農が進
む現状を放置しています。

しかし、いま世界では、気候変動による
干ばつなどに加えてウクライナ戦争が勃発
し、食料危機が広がっています。国連・世
界食糧計画 (WFP) の幹部は、「来年は世
界の人口を養うために十分な食べ物がない
状況に陥る可能性がある」と述べています
(NHK のインタビュー)。

日本の食料自給率はわずか 38%。世界
中から食料を買いあさっていますが、いつ
までも買える保証はありません。国内にも
生活に困窮し十分な食料を入手できない人
たちが増えています。

いま求められているのは、食料を思い
切って増産することです。生産者も消費者
も力を合わせ、農業の主役である家族経営

を支え、自給率を本気で向上させる方向に
農政を大転換させましょう。



国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会 (全国食健連)

〒173-0025 東京都板橋区熊野町 47-11 社医研究会館 1 階
電話：03-3957-8900 Eメール：center@shokkenren.jp